

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3570200778		
法人名	有限会社 ピーエス興産		
事業所名	グループホーム サンきらら		
所在地	山口県宇部市大字東岐波4327-26		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町受理日	平成23年4月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

サンきららは、美しい景観に恵まれた静かな海辺に佇み、自然や季節感を身近に感じられます。また、設内の共有空間は家庭的な作りとなっており、暖かい家庭的な雰囲気の中でゆっくりくつろいで過ごして頂けます。職員の年齢幅も広く、どなたにも対応できる技術を有しています。個別サービスを常に念頭におき、入居者様の希望される生活を提供するために、職員一同学びの精神を忘れず、介護支援の質の向上を目指しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域の三神社まつりの子ども神輿が巡ってきたり、お地藏様の接待や地域の文化祭への参加、法人主催の夏まつりや近郊グループホームとの合同運動会には地域の人や子ども達も参加されるなど交流しておられます。運営推進会議では地域の方と非常事態が発生した場合の利用者の見守りや避難時の協力が確認され、利用者が地域とつながりながら暮らしていくことを支えておられます。外部研修、法人内研修、事業所内研修等を受ける機会を確保され、働きながらトレーニングをしていくことで、職員のスキルアップに努めておられます。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年1月18日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったりとした時間の中で趣味を活かした役割を持つ事で、生きがいを見つけその方らしい生活を目指す、という理念を軸としそれを実践し、達成するために、スタッフ一同確認をし合いサービスを行っている。	地域の中で利用者がその人らしく暮らしているように事業所独自の理念を作り、事務室、食堂、廊下に掲示して、確認し、職員は共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や事業所の行事に参加して頂く事で、地域との交流を図っている。また散歩を通じて地域の方と接することで、声をかけ合えるような関係を築いている。	地域の文化祭やお地藏様の接待への参加、法人主催の夏まつりや近郊の3グループホーム合同の運動会等で地域の人や子ども達と交流している。散歩時の挨拶や野菜の差し入れ等で、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議時または個別的に地域の方から相談を受けた場合は、支援方法等を説明している。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価によって、職員のサービスの確認、見直しができ、課題点、問題点がみえてくる。それを改善するために目標をかかげ、その目標を達成できるように取り組んでいる。	評価の意義を理解し、各項目ごとに全職員で取り組み、計画作成担当者と管理者がまとめている。自己評価をすることで課題点が見えてきたり、ケアの振り返りとなり、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、ご家族、市の担当者、地域の方、母体病院関係者に参加して頂き会議を行い、そこでの意見(改善点、疑問点)がその後のサービスに反映できるように努めている。	利用者、家族、地域の人(5人)等で2ヶ月に1回開催して、利用者の状況報告、行事報告、外部評価の結果報告、災害時の対応等について話し合い、意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の課題、問題点に関しては、市町担当者から助言を頂いている。また、ケアサービスに関しては、サービス向上のための研修をお願いする等協力を得ている。	市介護保険課とは、研修の講師として相互交流をしている。地域包括センターとは、ケースの相談にのってもらうなど、市とは協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、年に1回研修を行っており指定基準に反するような身体拘束は行っていない。入居者の安全を守る事と防犯の観点から玄関は施錠している。しかし、利用者の戸外に出たいとの希望に添えるよう努めている。	マニュアルを作成し、研修を実施して職員は拘束をしないケアを理解している。利用者の安全と抑圧感のない暮らしの工夫に努めて支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待においては年に1回研修を行っており、どういう事が虐待にあたるのか職員間で話し合い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては外部の研修で学ぶ機会があり職員に伝達している。ただ、現入居者の中に制度を必要とされる方はいらっしゃらず、今後必要と思われる場合は研修で学んだ事を活かしていきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の項目ごとに説明し、理解、納得を図っている。契約締結時には、不安、疑問点の有無を確認し、契約内容で了承後、押印して頂くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情マニュアルを作成しており、手順通りに処理を行っている。最終的に職員間で対応策を考え、改善すべき点は改善している。また、報告すべき内容であれば運営会議時に報告している。	運営推進会議時や来訪時等に意見を聞く機会を設け、出された意見は職員間で共有して、サービスに反映させている。苦情(相談)の受付体制や処理手続きを定め、外部機関、第三者委員を明示している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に職員からの意見や提案を聞く機会には設けてないが、職員が自由に意見や提案ができるように心配りをしている。また、職員個別に自己評価を行っておりそこに意見や提案を書く欄を設けている。	管理者は職員が意見を出しやすいよう日頃から心がけている。出された意見や提案は、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に各職員の自己評価を実施し、また夏季と冬季の年2回人事評価を実施。それぞれ期末手当及び賞与へ反映することにより、理念の浸透、よりよいサービスの徹底に向けて各自努力する体制をとる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修から、それぞれの職員に応じた研修、講習に参加している。	法人内研修は月に1～2回、事業所独自の研修は2ヶ月に1回実施している。外部研修は段階的に勤務の一環として参加の機会を提供し、受講者は復命をしている。新人職員に対してはケアの技術、利用者との関わり方について指導すると共に、働きながらのトレーニングをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの運動会には、他のグループホーム2施設合同で実施し、ホームで一緒に作る”手作り弁当”は好評を得ている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初に、アセスメントを行い、希望や困り事を聞いてサービス計画を作成している。入居生活に早く慣れて頂くよう、また職員と信頼関係を築けるようにサービスを行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初にご家族を含めアセスメントを行い希望や困り事を聞き、内容をサービス計画に反映し支援している。またご家族の話を傾聴し、安心を提供できるよう配慮している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族が希望される生活を提供するために何が必要なのかを、カンファレンス時に提案、または確認し支援している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一同、家庭的な環境の基での生活を常に念頭におき、利用者一人一人の人格を尊重した上で支援している。また、利用者の得意な分野を生活にいかし、職員も入居者から多くを学びながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時、または必要な場合は生活状況の報告や支援の方法について等相談している。また、年に数回家族を含め楽しめる行事を実施している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の、友人や馴染みの方の面会を受け入れている。	友人や知人の来訪や自宅が近郊の利用者はドライブ時に自宅訪問したり、家族の協力を得て馴染みの美容院へ行くなど、関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格を理解した上で、良好な関係が保てるよう、スタッフが間に入り支援している。また得意分野のお手伝いをお願いするなど入居者同士支え合っていると思ってくれるように配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体病院に入院となり、契約終了となられた方については面会に行き、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が希望、意向を訴えられる場合は傾聴している。困難な場合は、生活状況や生活習慣から希望されるであろう生活、その方らしい生活をご家族と相談しながら検討している。	日々の関わりの中で利用者の表情や言動に注意を払い、一人ひとりの思いの把握に努めている。センター方式のシートを活用して、職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、アセスメントを行い必要な情報を、入居者、ご家族から得ている。また、以前利用されていたサービスがあれば事業所より情報を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況や生活状況等、個人記録や日誌申し送りノート、熱計表に記録し把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、ご家族の意向を取り入れ希望される生活(課題)が達成できるよう、本人又はご家族、関係者とカンファレンスを行い介護計画を作成している。	本人、家族からの意見や、医師からの意見を聞いて計画している。モニタリングは月1回実施し、3～6ヶ月に1回随時見直し、話し合って現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子とサービス状況は、個別記録に記入し、1か月毎に経過、結果を記録している。その記録により、介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体病院との医療連携体制を活かして、主治医の往診や、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議に民生委員、老人会の方にも参加頂き意見交換を行っている。消防の方とは避難訓練やAED講習で、警察の方とは施設巡回等で協力体制を得ている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医による継続的な医療が受けられるように配慮している。受診に職員が付き添った場合は受診結果を家族に報告している。	本人、家族が希望するかかりつけ医と事業所の協力医が主治医となっている。2週間に1回の定期受診、随時受診の付き添いには家族と協力して支援をし、情報の共有をしている。訪問診療に来てもらうケースもあり、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員や母体病院の担当看護師と相談、情報交換を行いながら健康管理や医療的な支援を受けれるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の混乱が少なくなるよう生活状況の情報を提供し頻会に面会に行き医療機関と連携するように努めている。また、早い段階で退院できるよう主治医と話し合い必要な支援を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望があり主治医の了解がある場合、終末期まで支援する、という方針を職員間で共有している。	「終末期まで支援する」方針があり、実際に重度化した場合には、本人、家族、主治医と話し合い、移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため。一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応、離所マニュアルを作成し、手順通りに対応している。また、個々のサービス計画に事故防止に関する支援方法を盛り込み情報の共有に努めている。AED講習や、母体病院の研修に参加し、初期対応に備え、取り組んでいる。	「インシデント、アクシデントレポート」を作成し、事故について共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。「離所マニュアル」を作成し、年1回のAED講習や法人研修に参加して、初期対応に備えている。定期的な訓練は実施していない。	・応急手当、初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応は、運営会議時等で地域の方と確認をとっている。また、母体病院の災害時の対応の研修に参加することや、施設内でも避難訓練を行っている。	年1回法人で昼間の火災を想定した避難訓練、通報訓練、消火器の使用訓練を実施している。避難場所は地区の自治会館となっており、避難場所への誘導や見守りの協力体制を築いている。事業所で食糧の備蓄の用意もしている。	・夜間想定避難訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援するうえで、特に言葉がけには、入居者の人権、人格を尊重し本人が不快に思わないように職員一同注意している。また、個別情報保護については、職員研修を行い秘密保護の徹底に努めている。	一人ひとりのプライバシーの確保に努めている。プライバシーを損ねる言葉かけや行動をしている場面をみれば、管理者が助言、指導している。入浴時の配慮やトイレ誘導時の言葉かけなど誇りやプライバシーを損ねないような対応をしている	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別サービスを行うことを常に念頭におき、その方の情報、言動、行動等から、今何をされたいのか、どう思われているのか考え支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者、一人一人どう過ごしたいのかは、それぞれに毎日変化する。今日どう過ごしたいのか、入居者の思いを尊重している。職員の都合(スケジュール)に合わせた生活にならないように心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んで、身だしなみを整えて頂くように配慮している。難しい部分はスタッフが支援している。また、理美容院についても、ご本人、ご家族の希望があれば、馴染みのお店を利用して頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に添う献立を立て、多品種の食材を使用し和食・洋食・中華などを組み合わせている。調理方法も変え、季節の味覚や旬の食材の提供をし、食べる事を楽しんで頂けるよう配慮している。	三食とも事業所で職員が献立をし、利用者と一緒に準備、調理をし、職員も一緒に食卓を囲み、同じ食事をいっしょに食べながら会話し食事がゆっくと楽しめるようにしている。献立時には、利用者の好みを聞いたり、利用者とともに育てた野菜を食材に使って調理し、食事の準備や後片付けなど利用者のできることは一緒にしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々献立を記録し、栄養が偏らないように考慮している。水分補給は10時の牛乳飲用を含め、3度の食事・15時のおやつ時の水分補給量を記録し、水分確保を支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせて口腔ケアの支援を行い、口腔状態をチェックしている。また、必要があればご本人ご家族と相談の上、歯科往診をお願いする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや排泄のサインの情報を職員で共有しトイレへ促すように努めている。	習慣やパターンを把握し、一人ひとりに合った支援を行っている。さりげない言葉かけや誘導を行い、夜間も基本的には、トイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況の把握に努め、食材や飲食物の選択、又は適度な運動を促し便秘予防に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	目安として、入浴の曜日と時間を決めてはいるが、ご本人の希望により随時変更している。	1日3人、13時30分～15時頃までの間にゆっくりと入浴を楽しむことができる支援をしている。希望すれば毎日でも入浴できる。入浴したくない利用者には時間をかけたり、声かけの工夫などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の個々活動に合わせて日中の休息を促し夜間ぐっすり休んで頂けるように支援している。また、眠剤を使用されている方については睡眠状況等主治医に報告している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法については職員が把握できるように個人記録に綴じている。薬の変更があった場合は、申し送りノート等に記入し情報の共有に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント時本人の特技、趣味、生活歴を聞きそれを活かす事や、お手伝いをお願いし役割を持つ事で生活が活性化し楽しんで生活して頂けるように配慮している。	カラオケ、ぬり絵、洗濯物たたみ、モップ掛け、ゴミ捨て、テーブル拭き、盛り付け、配膳、野菜作り等の活躍できる場面作りや地域行事の参加や法人の病院での節分祭やクリスマス会等の楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけているが、それ以外にご本人の希望があれば随時戸外に出かけられるよう配慮している。また、ドライブ・花見・買い物・バス旅行等、ご家族との触れ合いを多く持てるような外出計画をたて支援している。	日常的な周辺の散歩や、ドライブによる公園や花壇の花見をしたり、利用者と家族と一緒に日帰りバス旅行、地域での節分祭への参加など、家族や地域の人との交流もあわせて、できるだけ戸外に出かけることができる様に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があればお金を所持し使えるように支援しているが、所持金や買い物の内容についてはさりげなく確認しご家族に報告している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりについては希望時、ご本人の能力に合わせて支援している。特に電話はプライバシーに配慮し本人が自由に話せる環境を提供している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所的に海の近くの静かなところで身近に自然を感じられる。また、建物も自宅に近い設計となっており生活環境としてはよいと思われる。季節を感じられるよう花を育てたり、時々の花を活けたりと工夫している。	共用のホールは明るく、テレビや椅子、ソファが配置され、壁面には日々の役割分担表や絵画の掲示、南窓からは瀬戸内海が望まれ、廊下の壁面には絵画や写真、季節のものが飾られるなど、一人ひとりがゆったりと居心地良く過ごせるようになっている。台所はホールに接しており、調理の音や匂いを感じることができ、五感刺激への配慮のある共用空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は、食堂・リビング・畳部屋等があり、また廊下や玄関にソファを設置し、お一人、又は少人数でもゆっくりくつろいで頂けるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、今まで使用されていた馴染みの家具や日用品を持ち込まれ、居心地良く過ごして頂けるように工夫している。	ダンス、本棚、仏壇、机、椅子、テレビ、ぬいぐるみ、スタンド、ベッド、花鉢など使い慣れた物、好みな物、大切な物が置かれており、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて、出来ることはご自分で行って頂けるような環境づくりに配慮している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム サンきらら

作成日: 平成 23年 4月 4日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故発生時や緊急時は、母体病院に受診・往診することから、応急手当・初期対応などの実際の訓練は実施していない。	定期的に応急手当・初期対応の訓練を実施し、実践力を身につける。	ホーム内研修時に、看護師より応急手当・初期対応の訓練を受ける。	6ヶ月
2	36	日中の火災を想定した避難訓練は実施していたが、夜間を想定した避難訓練は実施していなかった。	夜間を想定した避難訓練を実施し、災害対策に努める。	夜間を想定した避難訓練を実施する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。